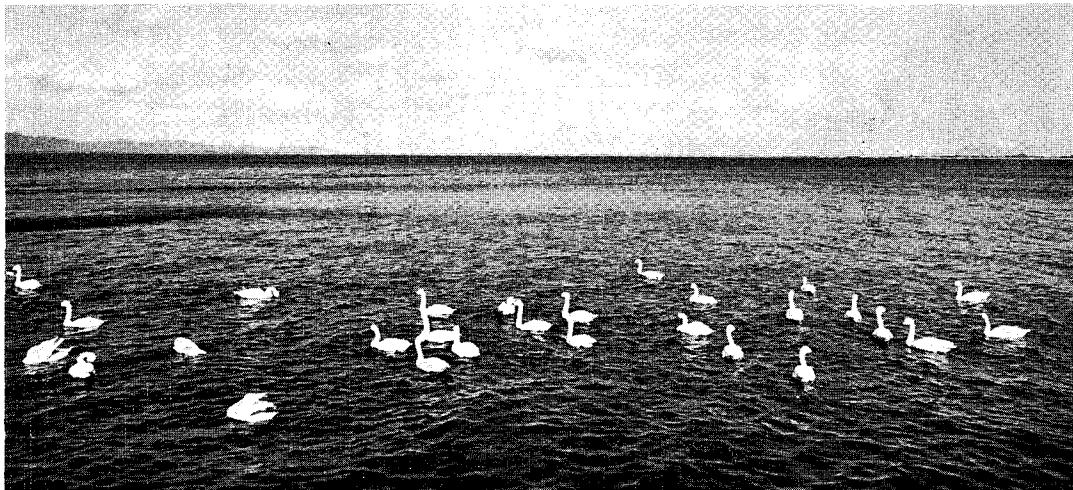


# 図書波だより

題字 田部島根県知事

号数 第7号  
発行日 昭和45年3月15日  
編集 横野健治  
発行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 21-2101  
印刷 渡部印刷株式会社



<帰国を待つ白鳥の群れ> 全日写連会員川本貢功氏提供

## 図書館と私

「ある書物は、その味を試み、ある書物は呑みこみ、少數のある書物はよく噛んで消化すべきである」一たしか、ペーコンの言葉である。まさしく御説もつともあるが、なかなか思うようにゆかない。当節のようににつづからつづへと出版される書物の氾らんの中にくらしていると、よく噛むどころのさわぎでない。消化不良もいいところである。

私は書物の濫読の楽しみを教えてくれたのは、もちろん図書館である。3月号の文春に桑原武夫氏は「濫読の楽しみ」なる一文をものし、手当たり次第に読みあさつているうちに、私の中にフランス文学への志向が芽生えてきたことを書いている。私は濫読のどちらを得たであろうか一何も得られなくてもいい。濫読の楽しみだけはつづけてゆきたい。

旧制松江中学の3年生ごろから休暇になると通っていたのが市立図書館。それは県会議事堂前の広場に大きな榎の木があるが、そこにあつた。丁度いまごろの季節、館内には中を石でかためた四尺四方の大火鉢があり、それに足をのせかせて、みんなが思い思いに本を読んでいた。ついで旧制松高の図書館。当時は蔵書も少なかつたせいか、いつもガランとしていた。あまりガランとして人気のない図書室というものは、かえつて落ちつかないものだ。ロツクフエラーが寄附したといわれる東大の図書館はすばらしいものだつた。16万冊の図書があるんだつてと聞かされてびっくりもした。高文をうける連中がいつもガツガツ机にかじりついているので、そのうち雰囲気がいやになり、上野の図書館へでかけることが多かつた。いまもあるのかわからぬが石の階段をおりる地下の食堂には、好学(?)の連中が目をひからせながらうどんをすつっている風景など逆にこちらのファイトをかきたてさせられたものだ。こうした慣習がいつのまにか、図書館と濫読の楽しさを教え、いまでは一週間に二度や三度は必ず本屋の書棚をのぞかないと気がすまない性格をつくりあげてしまった。

四耐という言葉がある。人の世に処してゆく道を説いたものである。これは1、冷ややかなことに耐える1、苦しいことに耐える1、煩わしいことに耐える1、閑に耐えるの4つであるが、この中で閑に耐える、最も困難ありといわれている。さいわい立派な図書館が近くにある。濫読の習い性となつた私は閑に耐えることも、あるいは至難ではないと思っている。

県議会議員 宗 疎 照

# 地域づくりと図書館

県立図書館振興課長

岡 田 穂 積



この間、大阪市立天王寺図書館を訪ねる機会があり「図書館の話」の著者で有名な森耕一館長に面会した。

森館長は、この本を執筆するとき、「大英百科事典」で図書館について調べてみるとと思つき、調べてみたら24頁にわたる記述がなされており驚いたという。さらに、「アメリカーナ百科事典」を引いてみると、これはまた83ページ（別に図版12頁）を費していたという。「アメリカーナ百科事典」のこの項を翻訳するだけでも、新書版の本が1冊できてしまふほどに対して、わが国の百科事典はと調べてみると、正味わずか3ページの説明しかなかつた。このことだけから見てもすでにイギリスやアメリカと日本における図書館に対する評価のちがい、社会生活の中に占めている図書館の重さのちがいを認めざるを得ない。」といわれてなるほどどうなづかずにおれなかつた。

先日もある町の婦人学級に招かれて図書館の本の利用について、いろいろ話し合っているうちに質問があつて驚いたことには、

「1週間、本を借りるとおいくらですか」と、いままで無料で図書館に入れて、無料で借りられることを知らなかつたといでのある。図書館とは「学生の行くところ」くらいにしか考えていない。

欧米の先進国では、公共図書館は「民衆の大学」であるということばがあるほどに、地域住民の生活の中に図書館が浸透し、量的な広がりとともに質的に高い内容をもつてゐるといわれる。

昨年発行された政府の公式の調査報告書である「国民生活白書」は、いろいろ話題になつたところであるが、この白書の第二部「生活水準の道標」の中の、生活水準の国際比較を見ると、最高に充実した国を100として、日本が7.7という悲惨な数字が出ている。

これは生活環境水準の7項目の1つ「自由時間の充実」の尺度として、公共図書館が所有している蔵書数と、都市公園面積とのそれぞれ人口1人あたりの数字が比較の基準として積算されている。すなわち、

|      |      |        |      |
|------|------|--------|------|
| アメリカ | 100. | スウェーデン | 94.0 |
| イギリス | 73.7 | 西ドイツ   | 46.3 |
| イタリア | 35.9 | フランス   | 35.1 |

といふ次第である。

戦後、いち早く図書館設置のための法律も制定されたけれども、現実は図書館のない市町村がいかに多いことか。まことにお寒い実態である。

昨年大学を卒業して現在農業に従事しているある青年が、学校へ行つているときは小学校から大学まで、図書室か、もしくは図書館があつて、勉強をするのにも調べものをするにも利用できたので便利だつたが、社会人になつてみると、こうした勉強のできる場所が町や村になつてみると、とても淋しい。パチンコ屋という遊び場はあつても図書館という勉強する場所がない。といつて嘆いていたが、たしかにこの青年が訴えるように、いつでも、誰でも、どこに住んでいても、どんな本でも利用できる図書館は、地域住民みんなの願望として設置されねばならぬ情報化社会不可欠の社会施設である。

自治省は70年代の地域づくり政策として44年に広域市町村圏構想の実現に着手し、本年度中に全国で55圏域を設定した。各圏域の基本構想と振興計画は、3月末に策定を完了することになっているが、更に45年度には70圏域を設定すると発表している。

この広域市町村圏の振興整備のねらいは、経済の高度成長を反映して、国民生活の水準は向上し、生活様式の都市化が進んでいるが農山漁村でも、ごみ処理、し尿処理、上水道文化施設の整備などをはじめ都市と同じような行政サービスを行なうことが要請されている。しかし、地方公共施設の整備は、非常に立ち遅れているので市町村が住民の要求に応じきれない現状に対し、一方自動車の大衆化とともに、住民の日常生活上の行動範囲も次第に拡大し、都市とその周辺農山漁村地域が結びついて、市町村の区域をこえた広域的な日常社会生活圏が全国的に形成されてきつつあることから、市町村が住民の要求に応えて効率的な行政をおこなうためには、この日常社会生活圏を一體とした市町村の広域行政を行なう必要がある。そこで、以上のような社会経済情勢の変化と地域社会の変ぼうに対処し、市町村が当面する課題を広域市町村圏の振興整備計画で解決し、魅力ある豊かな地域社会を建設し、国土の均衡ある発展と過疎問題の解決に資することをねらいとしている。

わが島根県においても、4圏域が策定され44年度には出雲、益田地区がそれぞれ設定されている。この広域市町村圏の振興整備の財源措置としては、計画策定期費補助

金の交付のほか、2年間にわたり1,000万円の広域市町村圏整備事業費補助金や、地方債などの優先的配分、地方道整備を重点とした地方交付税の上乗せ配分などかなり積極的なバックアップがなされようとしている。

このような広域市町圏の設定による振興整備計画において、広域図書館システムを各圏域の創意工夫によつてとりあげられようとしている動きが、頗るくば共同処理ということにのみとらわれて、生活圏域という最も基本的な地域の中における図書館の施設充実を無視した共同化システムにのみエネルギーを集中することなく、文化活動のいや住民の生涯教育の拠点の設置を前提とした広域事務の処理を考えるべきではなかろうか。し尿処理施設を共同で設置し処理するというシステムと同じように、図書館という施設は中央に一つづくればよいといつたものでなく、すくなくとも各市町村という地域社会・二次生活圏（中学校区）には、ぜひ、文化センター的、公民館的、図書館の拠点をもつことを基盤として、その基盤の上に視聴覚ライブラリーを含めた中央センタ

ー的あるいは、その拠点活動の支えとなるような広域的事務処理と事業処理をこと図書館に関する限り考えるべきではなかろうか。それは、いつでも、誰でも、どこに住んでいても、どんな本でも利用できる施設、それが図書館であるが故にである。

さいわい、本県の益田地区においても文教施策としての図書館事業が策定されつつあるが、その実現が一日も早からんことを希求する次第である。

#### (参考)

#### 図書館1館当りの人口

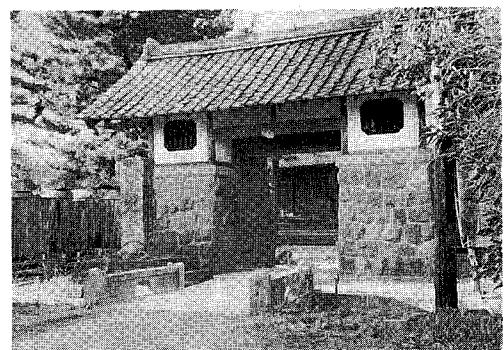
|        |             |
|--------|-------------|
| ソ連     | 0.58 (単位千人) |
| アイルランド | 0.86        |
| 東ドイツ   | 1.30        |
| 西ドイツ   | 5.48        |
| アメリカ   | 23.41       |
| インドネシア | 63.95       |
| ネパール   | 69.17       |
| 日本     | 131.14      |

## へるんゆかりの地を訪ねて (2)

(栗原そば屋) 市内栄町にありへるんが大好だつたところ、今は廃業して住宅になつてゐる。家のすぐそばを山陰線が走つておき、干拓によつて宍道湖が埋めたてられ昔のおもかげは全く見られない。当時は家のすぐそばまで湖水にあらわれておき、このあたりは行楽地として、松江名所の一つとして有名であつた。『湖水のほとりのそば屋から夕日を眺めようと思つて、わたくしは町の西南のはずれへと足を運んで行く。このそば屋から眺める夕日は、わたくしの松江の町における楽しみのひとつである。……太陽が歿し始めるにつれて、水に空に色々の不思議な変化が現われる』(神々の国首都より)

(八重垣神社) 市内大庭町にあり、祭神は八岐大蛇退治の須佐之男命と稻田姫であり、縁結びの神様として知られている。『この池で、恋するものが紙で小さな舟をこしらえて、それに一厘錢をのせ、それを池に浮べて、じつと見ているというしきたりもある。水が紙にしみこんで中に入ると、舟は一厘錢の重みでじきに水の底へ沈んで……沈んだ舟に、イモリが寄つてきてさわると、その恋人は神様のおぼし召によつてしまわせを保証される

し、イモリが寄つてこないと見徳は悪いとされている』(八重垣神社より)



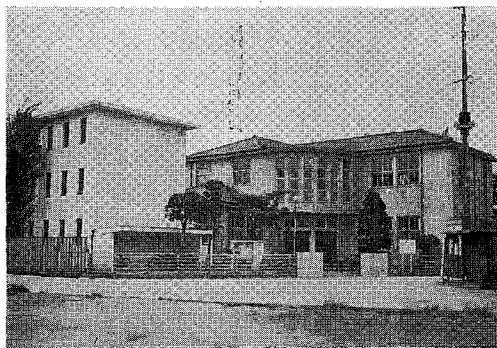
(大雄寺) 市内中原町にあり、松江開府の際廣瀬町より移された日蓮宗の古刹である。へるんは日本民間説話の代表的なものとして「大雄寺の怪談」の舞台としてこの寺の墓地をとりあげた。この母親は、まだほんとに冷たくならないうちに葬られたために、墓のなかで赤児が生まれ、そのために、母親の幽霊が、ああして水飴で子供を養つていたのである。母の愛は、死よりも強いのである。(神々の国首都より)

# 公共図書館の広場

## — 出雲市立図書館の巻 —

### 沿革

戦争直後、復員してきた若者たちのグループは、何のうるおいもない戦後の出雲市に、若い情熱のはけ口を文化活動に求めて出雲青年文化クラブを作り、知識への欲望から荷車を引いて蔵書家を訪ね、約1,000冊の本を集めて昭和21年出雲市民文庫が発足したが、これが出雲図書館設立の基盤となつたものである。この市民文庫の予



想外の発展と、市民の強い要望により、翌昭和22年12月、旧郡役所建物の一角に簸川郡教育会の図書2,500冊を譲り受けて市立出雲図書館が誕生し、利用者の増加に伴ない昭和26年新館が竣工し、次いで書庫を新築して現在にいたつている。

### 主要事業と特色

＜郷土資料の充実＞ 創立以来特色ある図書館としていくことを意図して、先ず郷土資料の充実を企画し、島根県を範囲とする郷土に関する図書をはじめ、古文書、地図、写真及び絵はがき等の収集に努力し、一昨年整理済のものについて当館独自の郷土資料目録を刊行したが、これらの郷土資料は郷土研究家、学校等のほか、広く県外からも利用されている。

＜レコードライブラリー＞ 新館竣工の昭和26年レコードライブラリーを設置して館内における定期レコードコンサートのほか、移動コンサート、野外コンサートを開催し、また団体を対象とするレコードの貸出及びイヤホーン式ステレオ装置4台による個人聴取を行なつてゐる。さらに昭和35年より高性能テープレコーダーを備えて各種の録音に応じると共に、積極的な録音記録活動を行なつてきた。

＜郷土民謡の採取＞ 昭和40年より島根地方の、年々失なわれていく郷土の民謡を採取して保存することを計画し、現在約300種の民謡を収録しているが、NHK、BSS等の放送資料及び音楽団体、学校、郷土史家等の研究資料として活用されている。

＜学校図書館との協力＞ 出雲市内の小学校16校、中学校6校、高等学校6校の学校図書館と創立以来緊密に協力してきて、図書館運営の一つの柱となつてゐる。この学校図書館と協力して行なつてゐる事業には、小、中、高校生を対象とする読書感想文コンクール、小、中学生を対象とする読書感想画展及び児童詩コンクール等があり、また、年3回小、中学生向優良図書を選定して目録を発行している。さらに学校図書館を通じてPTA文庫を作り、図書館の貸出文庫利用を推進している。

＜展覧会の開催＞ 每年秋期に各種の展覧会を開催しているが、本年度は市内愛蔵家の協力をえて著名作家の筆跡展を開催した。

＜夏期夜間開館＞ 7月及び8月の2カ月間、毎日午後9時まで開館して学生生徒及び昼間多忙的一般利用者に便宜を図つてゐるが、連日満員の状態である。

＜レフアレンス、サービス＞ 仕事の上や日常生活のことについて質問に答えるため、相談室を設けているが、利用件数は年々増加している。

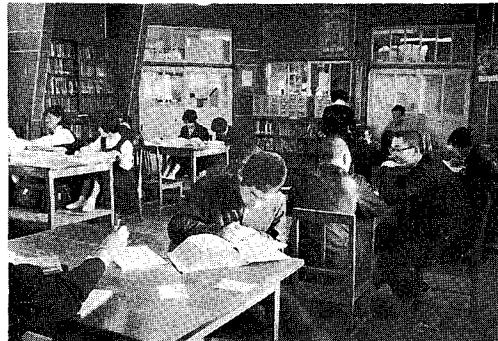
＜外国資料の収集＞ 直接各国へ依頼して、82カ国よりポスター、案内書、パンフレット、リーフレット、研究論文、写真等4,000点の資料を収集している。

### 今後の課題

現在の館舎も建築以来20年を経過してかなり老朽し、設備も不十分であり、かつ、閲覧室、書庫も狭隘となり、利用者の多いときは資料室等も使用してゐる状態である。

したがつて図書館協議会及び利用者の間からも早急に新しい図書館建設の声が高くなつてゐる。このため数年前から一般閲覧室、児童室、学生室各100名、計300名を収容できる新館の設計画をたててゐるが、まだ具体的な建設の目途はたつてない。

また、利用者数は近年横ばいの状態であり、利用率の向上を図るためにブックモビルまたは配本所の設置等新しい構想を考えなければならない。



# 小中学生をもつ、お母さん方へおすすめしたい本！

母と子の20分間読書

椋 島十著

鹿児島県立図書館長としてまた児童文学学者としての著者が、多くの子ども達に読書習慣を身につけ、更に読むということから親子の心の触れ合い、結びつきを願つてはじめた20分間読書の入門書である。

あすなろ書房 350円

親子読書入門

松尾弥太郎著

読書という営みは地味で根気のいるものだから親のちよつとした心使いが大きな力となつて子どもの読書の力を育していく。読書意欲を育てる参考になる本。

あすなろ書房 420円

母と子の対話のための読書

清水達也著

「茶の間ひととき読書」運動を提唱して、母と子と教師を結びつけ、その溝を埋めるのに大きな成果をあげている著者の実践記録。家庭や学校での子どもの読書について、多くの指針と示唆を得ることができる。

童心社 420円

子どもとマスコミ

羽仁 進著

世に氾濫しているマスコミが、どのように子ども達に働きかけているか。お母さん方との問答形式で、マスコミに対する新しい進んだ考え方というものを一緒に求め考えていこうとしている本。

評論社 290円

はじめて1年生をもつお母さん、幼年教育の会編

1年生入学、ここで子どもの人生のスタートがきられる。とかく教育不在、子ども不在の教育といわれる現実に、お母さんとお父さん、お母さんと先生が子どもの教育について話し合ういとぐちがつかめる本。

誠文堂新光社 350円

絵本と子ども

瀬田貞二等著

いつ、どのような絵本を子どもに与えたら良いのか。どのような絵本がなぜ良いのか。絵本の要素を分析し、絵本を見分ける具体的な手がかりを得る本。

福音館書店 250円

本と子ども

合田修等著

母親のために書かれた子どもの読書についての指導の手引書。『すすめたい本』としてのリストも掲載し

てあり非常にわかりやすい。執筆者は児童図書館員等の現場人。

国土社 330円

子どもと文学

石井桃子等著

明治の末から現在までの近代日本児童文学と呼ばれるものが、はたして今日の子ども達に適当なものかどうか、小川未明、宮沢賢治らの作品から丹念に追求。

福音館書店 250円

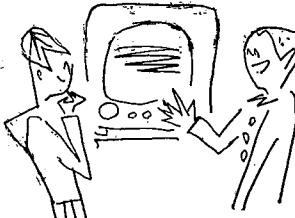
子どもの本の事典

坪田謙治等著

本の洪水といわれる今日の状況下にあつて、一冊一冊の本を吟味して、「よい本をすすめる」ことは、子どもの心身のすこやかな発育を助長するための基本であり、豊かな心情をはぐくむ。

「子どもの本の研究書」としての性格をもつ本書は、同時に家家などでの図書指導、参考資料として適切な示唆を与える。

第一法規 2,800円



反抗期の導きかた

品川孝子著

なんでもイヤイヤの時期からギャング時代、それから見栄ばかりの孤独屋さんの時期へと、子どもは親に反抗しつつ独立しようともがく。それぞれの反抗期にある子どもの実態を描きながら、その導き方を説く。

国土社 280円

少年期

積田守一〔等〕著

「家庭の教育」という4冊の一貫した双書の中の、小学生時代について、その意味と成長の姿、教育的配慮を内容としている本である。小学生になる、という社会的環境と切り離せない、また、家庭でも子どもに接する態度に変化をきたす、子どもたちのたくましい成長を期待する中に、親自身が考え努力をしようといつていている。

岩波書店 380円

中学生

佐山喜作著

「中学生」とは、どういうものか。一般に成長の時期区分が「おとなと子どもの中間」で心理学的にもつとも動搖しやすいと言われる。こうした彼等をとりまく社会的条件と、具体的な生活の存在とを結びつけ、あわせて考え、原因、問題の解決に近づく。

岩波書店 150円

# 寄 贈 図 書

## ◎寄贈図書

| 図 書 名                  | 住 所   | 寄 贈 者        |
|------------------------|-------|--------------|
| 北米百年桜                  | 東京都   | 三原源治<br>伊藤一男 |
| 史実と伝説の美保関              | 八 東 郡 | 鶴鶴義夫         |
| 創立25周年史                | 出 雲 市 | 出雲工業高等学校     |
| しまね野鳥誌                 | 松 江 市 | しまね野鳥の会      |
| 工窓会名簿                  | "     | 工窓会長         |
| 島根県農業協同組合史             | "     | 社会教育課        |
| 昭和大蔵省外史上 下             | 東京都   | 国立国会図書館      |
| 京阪神地方の現況               | 大 阪 市 | 島根県大阪事務所     |
| 日本万博その上手な見方            | 松 江 市 | 観光貿易課        |
| 重要文化財日御碕神社             | 大 社 町 | 日御碕神社宮司      |
| 社殿修理工事報告書              |       |              |
| 農家の形態別にみた農家経済          | 東京都   | 農林省          |
| 雪山                     | 安 来 市 | 山本士郎         |
| 左鑑誌、日原人物誌              | 日 原 町 | 大庭良美         |
| 石見銀山                   | 東京都   | 竹下 弘         |
| 二つの世界の間                | "     | 鹿島平和研究所      |
| 野や山や湖のうた               | 龜 島 町 | 木村和夫         |
| 満舞多羅能以美上 下             | 東京都   | 谷 健資         |
| 日本の農業電化                | 広 島 市 | 中国電力         |
| 著作権100年史年表             | 東京都   | 文化庁文化部著作権課   |
| 明治天皇紀第3                | "     | 宮内庁          |
| 過疎地帯における農林業開発の方向と資金の役割 | 松 江 市 | 島根大学         |
| 広瀬町史下                  | 広 濑 町 | 広瀬町役場        |
| 都市、土地、住宅               | 東京都   | 日本不動産研究所     |
| 食糧管理史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ             | "     | 食糧管理史        |
| 中国吟草                   | 名古屋市  | 村瀬一郎         |
| 島根大学文理学部紀要第2号          | 松 江 市 | 島根大学         |
| 島の運輸大臣                 | 東京都   | ダイヤモンド社      |
| 句集花野                   | 浜 田 市 | 藤井佐保女        |
| 山陰の味覚と民芸品              | 松 江 市 | 山陰放送         |
| 血と汗の大地                 | 川 口 市 | 堀 吉久         |
| 馬木子ども風土記               | 横 田 町 | 馬木中学校        |
| 燐                      | 益 田 市 | 益田工業高等学校     |
| 読書感想文                  | 出 雲 市 | 出雲高等学校       |
| 山陰の陶窯                  | 松 江 市 | 伊藤菊之輔        |
| 年刊歌集                   | "     | 野津佐千穂        |
| 古代歌謡                   | 東京都   | 高橋真吉         |
| 海洋開発 第6巻               | "     | 日本海事広報協会     |
| 中国人民解放軍                | "     | 朝雲新聞社        |
| 岩戸開天皇教教典               | 東大阪市  | 綾 宣懿         |
| 第8回ウイルスに関する全国協議会       | 松 江 市 | 島根県衛生研究所     |
| 出雲の秘境                  | 飯 石 郡 | 頓原町役場        |
| 神、水雲                   | 三刀屋町  | 三刀屋高等学校      |
| 青少年問題研究調査季報            | 東京都   | 総理府青少年対策本部   |
| 芸亭                     | 天 理 市 | 天理大学図書館      |
| 船便り唐物語                 | 松 江 市 | 野津庄衛門        |



11月16日から2月16日まで

- 11月17日 松江市立乃木幼稚園P、T、A 20名見学  
 18日 自動車文庫巡回（美鹿コース）  
 24日 県図書普及振興大会（集会室）  
 参集者 80名  
 25日 松江市立朝鶴小学校P、T、A 30名見学  
 26日 静岡県土木部管轄課職員 3名来館見学  
 27日 柿木村婦人会50名見学  
 28日 館内読書会（第1回於集会室）  
 (11月中閲覧者総数14,670名)  
 12月 1日 地方行政資料展（12月中）  
 自動車文庫巡回（美鹿コース）  
 3日 木次町斐伊小学校P、T、A 17名見学  
 7日 日本国書館協会菅原部長外 1名来館見学  
 9日 自動車文庫巡回（広瀬、横田コース）  
 11日 県図書館協議会（第3回）  
 12日 県公共図書館協議会  
 13日 文化映画を見る会、ステレオコンサート  
 15日 自動車文庫巡回（加賀、美保関コース）  
 16日 自動車文庫巡回（伯太コース）  
 17日 青年の家研修生（就職希望中学3年生）47名  
 来館見学  
 18日 自動車文庫巡回（湖南コース）  
 19日 自動車文庫巡回（八雲、揖屋コース）  
 20日 古文書を読む会  
 23日 鳥取県立図書館長来館見学  
 27日 仕事納め（休館）  
 (12月中閲覧者総数11,950名)  
 45年 1月 5日 仕事始め  
 6日 (開館) 優良図書百選展（1月中）  
 10日 文化映画を見る会、ステレオコンサート  
 17日 古文書を読む会  
 24日 文化講演会①（島大、酒井教授）  
 明治、大正、昭和歌謡百年史  
 27日 曙の星幼稚園40名見学及び視聴覚学習  
 31日 図書館職員接遇研修会  
 (1月中閲覧者総数11,520名)  
 2月 2日 来松作家色紙展（2月中）  
 3日 大田市久利銀泉読書会22名見学および視聴覚学習  
 4日 奈良県立奈良図書館職員 3名来館見学  
 5日 松江市立竹矢小学校P、T、A 18名見学学習  
 7日 文化講演会②（島大酒井教授）  
 明治、大正、昭和歌謡百年史  
 9日 昭和45年度当初予算内示  
 10日 益田地区広域市町村圏研究会（於益田市）  
 12日 鳥取県立図書館館長補佐来館視察  
 13日 図書製本修理技術講習会（於集会室）  
 14日 文化映画を見る会、ステレオコンサート  
 16日 映写機操作技術講習会（於集会室2日間）

## 私たちの読書グループ

### 江津市跡市公民館

吾がグループは、読書人の集よりあることにちがいないが読書会と呼んでいいものかどうか。というのも、読み且つ考え、集まつて語る。その仲間に『書く』ことが義務づけられ、これを怠ると罰金を徴収されるわけである。

読み且つ考え、考えて確かめ、集まつて駄べることを楽しむ一方、文集『文化』を編集して各方面へ配り、地域の文化活動や自治活動の前進に一役買うことができるよう、これがこの会のもつて生まれた所以である。

昭和33年6月に10名ばかりの会員で発足し、月1回の集会が1年半ばかり続いて立ち消えになつた。『文化』の綴じこみをめぐつてみると、第1集『今後の自治会はいかにあるべきか』から始まつて、『跡市時間をどうして追放したらよいか』、『お祭りの統合は是か非か』、『共同化をはばむもの』、『文化祭のあり方について』、といった課題を次々にかかげて、保守革新、色とりどりの意見が述べられている。ときには『納涼漫談』、『新春放談』、『ごまかしたり、年末には地区の『10代ニュース』を募

集したり、だんだんタネが尽きてきて『子供』、『老人』、『病気』といった風に傾き出し、ついに死に至つて挫折し10年の歳月が経過した。

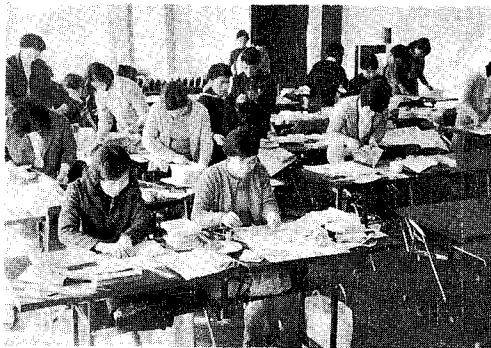
42年7月に県の自動車文庫の図書を利用したのが機縁となつて、この10年間高度経済成長の波間で雑多な経験をしてきた住時のメンバーが、期せずして顔を合わせる機会が多くなり、昨年7月『人間復活』の旗じるしをかかげて、10年ぶりに文化懇話会再登場ということに相成つた。

集会は自動車文庫の巡回時期に合わせるように年5~6回とし、『文化』も復刊20号から始まり目下23号編集中。会員のほとんどは住時の顔ぶれであり、平均年令も57才とぐんと延び、おつむに霜が、額にシワが目立つたけれども、ペンの方はいささかも衰えを見せない。若い層にも働きかけてみたものの、いわゆる断絶のせいか、それとも書くことがおつくうなのか乗つてきそうにもない。こんな具合でいつまた消えてなくなるか知れないこの会だが、当分は老人たちの賑やかな話合いが過疎の暗影をふつとぼして、おだてられたり、嫌われたりすることであろう。（跡市公民館河村昌人）

## 図書館ニュース

### 図書館製本修理技術等講習会開く！

島根県公共図書館協議会主催の技術講習会は、県下の公共図書館、学校図書館等に勤務する人を対象に図書の製本修理や、整理技術の修得を図るために、県立図書館青木奉仕課長を講師として開かれた。



整本修理技術講習会は、去る2月13日当館集会室において、松江市内および周辺の小中学校、高等学校の図書館関係者30名余りが参加し、午前中は技術理論を中心にお講義があり、午後は実習をおこなつて内容のある講習会を閉じた。

つづいて図書整理技術初級講習会は3月6日浜田市立図書館において開催された。

当日は石見部の公共図書館、学校図書館職員34名が参

加、日本十進分類法、日本目録規則を中心として講義がおこなわれ、参加者は終始熱心に聴講し活発な質疑応答があり有意義な講習会であつた。

### ◇全国観光資料展のおしらせ！

県内外の現状や観光について予備知識を得て旅行を楽しむことは、誰しもよく知つているところであるが、いざ調べる段になると適当な資料が見あたらず、困ることをよく経験することがある。また見つかった資料でも古くて参考にならなかつたりすることもある。当館では観光シーズンを控え旅行者の便宜をはかるため、各都道府県の協力を得て、最も新しい観光資料を集めて4月1日から17日まで展示するよう準備をすすめている。

なお4月18日から27日まで春季ばく書（図書の点検整理）のため休館します。

### ◇マイクロフィルム撮影はじまる

近年資料の急激な増加と保存の必要から、文献を縮小撮影複写してこれを保存し、また光学機械で拡大して読むマイクロ写真が重要視されてきた。

マイクロ写真資料にはいくつかの種類があるが、当館のものは普通に言うマイクロフィルムで、幅35ミリ、長さ30メートル50センチのものである。

現在マイクロフィルムは当館所蔵の古い新聞の複写を行なつているが、近い将来利用者の要求に応じてマイクロ複写サービスを行なう予定である。

# 新着資料の紹介

## 1. 館内用図書

### (総 記)

|              | 著者名       |
|--------------|-----------|
| 書 名          | 湯川秀樹      |
| 心ゆたかに        | 岡潔        |
| 神々の花園        | 小林一作      |
| 情報選択の技術      | 大久保道舟編    |
| (哲 学)        | 木田元       |
| 道元禅師全集第1巻    | 亀谷悟郎      |
| 現代哲学         |           |
| 情報時代の新思考法    |           |
| (歴 史)        |           |
| ローラ、ルクセンブルク  | フレーリヒ、パウル |
| 歴史、京都、芸能     | 林屋辰三郎     |
| 都市の内幕        | ジョンガンサー   |
| (社 会)        |           |
| 教科書新訳        | 文部省教科書研究会 |
| 親子の法律        | 太田武男      |
| 円切り下げその時どうなる | 日経新聞社     |
| 現代政治と議会制民主主義 | 藤原弘達      |
| 未来の企業、未来の人材  | 阿部実       |
| (自 然)        |           |
| 胃と胃ガンを語る     | 吉田富三      |
| タバコト肺ガン      | 平山雄訳      |
| 植物と民俗        | 倉田悟       |
| (工 学)        |           |
| 公害法の研究       | 戒能通孝      |
| 文化財と建築史      | 関野克       |
| 新編家庭医学全書     | 浅野秀二      |
| (産 業)        |           |
| 漁村構造の経済分析    | 岩切成郎      |
| インドの農民生活     | 米倉二郎      |
| 交通経済論        | 増井健一      |

## 2. 映画(16ミリ) フィルム

### 「メソポタミヤの文化」 カラー 2巻 対象 中、高、成人

メソポタミヤ展に展示された古代メソポタミヤの遺物、およそ300点は、文明の発生と、その発展をうらづける貴重な文化財である。この映画は、日本での公開を機会におもな遺物を記録し、文明の源流となつたメソポタミヤの文化を紹介するため製作したものである。

### 「父親何をなすべきか」 白黒 3巻 対象 成人、P.T.A

父親には、子供の成長のために母親とは違つた役割がある。その役割を子供の心身の発達段階—幼児期、児童期、少年期、青年期—に分けて描き、父親独自の役割は何かを示唆する。

### 「君ならどうする」 白黒 3巻 対象 青年

都会生活は夢に描いた程甘くない、この映画は農村に留まるべきか否かを考える青少年に、農業と都会生活とを比較して示し、進路選択を考えるために助けを与える。

### 「聖徳太子と飛鳥文化」 カラー 2巻 対象 小、中

聖徳太子の政治理想が内政、外交、文化、宗教の各方面に確固たる業績として結実し、飛鳥文化を形成していく

### (芸 術)

|              |          |
|--------------|----------|
| 現代美術事典       | 美術手帳     |
| 宮殿           | 毎日新聞社    |
| 冬山技術セミナー     | 金坂一郎     |
| (語 学)        |          |
| ゆたかな言語生活のために | 藤原与一     |
| 速記の完全独習      | 石村善左     |
| 生活英語         | 松本了      |
| 現代作家と文章      | 安岡章太郎    |
| (文 學)        |          |
| 棒になつた男       | 安部公房     |
| 戦後文壇事件史      | 読売新聞社    |
| 深い河          | 田久保英夫    |
| 英米文学カレンダー    | 所勇       |
| 立体ドツク文学      | 岡田朝雄     |
| 北欧文学の世界      | 山室静      |
| (児 童)        |          |
| 名馬キヤリコ       | バートン     |
| お母さんの木       | 大川悦生     |
| 宇宙旅行案内       | クリシヤンツエク |
| アポロ英和辞典      | 研究社辞書部   |
| (郷土資料)       |          |
| 鷗外と諦念        | 岡崎義恵     |
| 神話のふるさと      | 加藤恵      |
| 島根の釣り        | 福田祥延     |
| 中村元選集        | 中村元      |
| (レフアレンス)     |          |
| 最新園芸大辞典3     | 誠文堂新光社   |
| 白書の概要        | 大蔵省      |
| 文化人名録        | 日本著作権協議会 |
| 建築の儀式        | 伊藤平左衛門   |

く過程を、当時の文化遺産や物語によつて再編成し、児童、生徒の歴史理解を深めるために製作したものである。

### 「近代中国史国家統一への追求」 白黒 3巻

### 「内戦と日本の侵略」 白黒 2巻

### 「共産党勢力の増大」 白黒 3巻 対象 高、大、成人

この映画は、近代中国の歩みと、その過程におこつた様々な歴史的事件に焦点をあて、当時の記録フィルムで再現された近代中国史である。19世紀後半の帝国主義の性質を解明し、又、統一国家建設に対する軍事的な回答、毛沢東の派閥闘争理論、市民闘争で分裂した国に対する外国の影響、政治的・社会的問題に対する軍事解決の欠陥、中国共産主義の知的発達過程へとフィルムは真実を語る。

### 「狂言」 カラー 4巻 対象 中、高、青、成

「狂言」は、遠い中世に生まれた笑いの演劇であるが、その後の幾百年を、狂言師たちの体を通して脈々と生きつづけ今日にいたつている。映画はこの古典劇の生きた姿と、伝承の実体にせまる。